

# 平成29年度 施策評価表

課・グループ名	保健福祉課健康子育てグループ
	保健福祉課福祉障がいグループ

作成年月日：平成30年9月26日

施策名	4-(3)-⑥ 障がい児者福祉の充実		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	4. 健康的で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり	(3) 誰もがいきいきと暮らせるまちづくり	⑥障がい児者福祉の充実
①施策のねらいと展開方向	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域生活支援事業を実施し、地域の実情や障がい者のニーズを明確にし、適切なサービスの提供により障がい者の暮らしやすさや介護者の介護負担の軽減を図り、南幌町障がい者虐待防止ネットワークの構築により、障がい者虐待の未然防止及び早期発見に努めます。</li> <li>● 障がいのある人の自立生活や社会参加を促進するためには、外出の支援や移動手段の確保、交通費の経済的負担軽減を図ることが必要です。本町では各種交通費の助成を行っており、難病のある方にも通院交通費の補助を拡大し、経済的負担の軽減を図るよう努めます。</li> <li>● 障がい者相談支援事業所において、サービス等利用計画を作成し、本人のニーズに基づいた支援を受けることができるようサービスを調整し、適切で効果的なケアにつながるよう関係機関と連携しながら進めます。</li> <li>● こころの健康を守るための予防や病気への正しい対応の周知を行い、早期に専門職による相談利用につながるよう支援に努めます。</li> </ul>		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 町内には、社会福祉法人による施設入所支援・短期入所・生活介護・就労継続支援B型・居宅介護・グループホーム等の利用可能なサービスが拡大しており、ニーズに基づいたサービス提供ができるように、障がい者相談支援事業所においてサービス等利用計画を作成しています。</li> <li>● 地域生活支援事業により障がいのある方が自立した日常生活や社会生活を営むことができるよう、サービスの提供や障害者虐待の防止のため障がい者虐待防止ネットワークにより関係機関と連携を図り、早期発見・見守りを行っています。</li> <li>● 人工透析療法で町外へ通院している腎臓機能障がいのある方と北海道が定める特定疾患受給者証が交付されている方に対して交通費を負担することで経済的負担等の軽減を図っています。</li> <li>● こころの健康に関するスクリーニング、相談、普及啓発等により、こころの病気の正しい知識の普及を行っています。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域生活支援事業を実施し、障がい児者が自立した日常生活及び社会生活を営むことができるよう、制度の周知・地域の実情や町民のニーズに応じた事業の展開・障がい児者を虐待から守るために障がい当事者や養護者等の様子を見守っていく必要があります。</li> <li>● 就労支援のための受け皿の確保、個々の状況やニーズ把握を的確に行い、サービス等利用計画に反映させられるよう、相談支援体制のさらなる充実が求められています。</li> <li>● うつ病などのこころの病気になる方や自殺者がいるため、正しい知識の普及とともに、地域住民による見守りや共生、専門職へつなげることが求められます。</li> </ul>	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況							
① 成果指標	設定の意図			まちづくりの成果指標名		数値化	
	障がい児者の福祉の充実は、その対象者のニーズに沿った必要な福祉サービスを提供することが重要となる。このことからサービス利用者数の増減では、成果を図ることは難しいため、こころの健康を意識し、うつ病の早期発見のためのスクリーニングの実施数を代替指標とする。			成果指標 (総合計画・施策評価)		可能	
						不可能	
				代替指標 ※成果指標がない場合		指標の設定	
				こころの健康スクリーニング実施者数	○ 可能		
					不可能		
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H26	H27	H28	H29	H33	
目 標	人	150	700	700	710	750	特定健診の際に、こころの健康スクリーニングを実施している。平成27年度からは集団健診に加えて個別健診の場にも実施しており、実施数は年々増えている。
実 績	人	163	623	705	728		
達成率	%	92.0	89.0	100.7	102.5		

評価視点	評価結果	理由、課題・問題点
③施策の達成状況	A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)	<b>施策の達成度</b>  <b>A</b>  特定健診を利用し、効率よくスクリーニングが来ている。住民の方に対して、こころの健康の意識向上になっており、心配のある方に対して早期に専門医の紹介や生活指導ができています。 障がい児者福祉サービスの利用では、障がいに応じたガイドブック等により該当サービスの紹介を行い利用につなげている。さらに、障がい者相談支援事業所によるサービス等利用計画の作成により、関係機関との連携が円滑になってきている。
	B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)	
	C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)	
	D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)	

### 3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施設)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

#### ①事務事業評価結果

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H29)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>	
					目標	実績					単位	H29実績		H30予算
1	精神保健福祉事業	(1)	保健福祉課	①こころの相談を受けた人数 ②普及啓発事業参加人数	① 15	②200	こころの健康に関心を持っていただくために、こころの健康に関するスクリーニングや普及啓発を実施する。 また、こころの健康に心配のある方が早期に専門職の相談につながる体制としてこころの健康相談を実施する。	I	I	1 現状のまま継続	1,190	高い		
					①15	②80					人		1,197	
2	人工透析患者等通院交通費助成事業	(1)	保健福祉課	利用者数	17	人	平成27年度より難病の方を対象者に追加し、「人工透析患者等通院交通費助成事業」に名称変更した。人工透析の方については、個別通知を実施。難病の方については、個人情報関係から町で対象者を把握することができないため、広報・ホームページ等で周知を実施した。※助成内容(公共交通機関の往復運賃×月回数×12カ月×1/2×30%×階層区分=助成額(上限3万円まで))	II	I	1 現状のまま継続	396	高い		
					17	人					600			
3	指定特定相談支援事業所運営事業	(1)	保健福祉課	サービス等利用計画等の作成及びモニタリング実人数	3	人	サービス等利用計画等の作成及びモニタリング調査の実施。	II	II	1 現状のまま継続	0	高い		
					10	人					0			

4	地域生活支援事業	(1)	保健福祉課	①意思相通支援事業実人数	人	相談の内容や福祉サービスの申請内容に基づき、障がいの状況調査等を実施し、必要なサービスの支給可否を決定する。(相談支援事業・意思疎通支援事業・日常生活用具給付事業・移動支援事業・日中一時支援事業・自動車改造費補助事業・意思疎通支援者養成事業・意思疎通支援者養成事業・障がい支援区分認定調査・障がい者自立支援協議会・障がい者虐待防止事業等)	I	I	1 現状のまま継続	7,787	高い
				②移動支援事業実人数						人	
				③日常生活用具実人数							
				④日中一時支援事業実人数							
				⑤自動車改造費補助事業実人数							

年度別施策全体の事業費合計(千円)	
H29事業費	9,373
H30予 算	15,852

②H30に実施した新規事務事業					
	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H30予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果		理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の 妥当性	従来の事業を継続するとともに、当事者や町民の方の意見を反映した障がい者計画及び障がい福祉計画に基づき、当事者のニーズに合った新たな施策の充実に努めている。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)		
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	B	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)		

4. 今後の方向性 ※外部評価 (行政評価委員会)										
①総合評価 (今後の展開、 事業の見直し等) 委員会評価	【評価】 特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の 方向性  優先度 A~D (ランク)	事業番号						平成30年度以降 の予算の方向性	
			A							
			B	2	3	4				拡大
			C	1						○ 維持
			D						縮小	